

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

伝えよう、「あなたが大切だよ」って



「子どもの姿はそれぞれ違う」

トーマス! : いつでもげんき	ジェームス! : おしゃれでゆかい	パーシー! : たよりになるね
ゴードン! : とってもつよい	エミリー! : しっかりやさん	ヘンリー! : ちからがあるよ
エドワード! : やさしいところ	トビー! : しかくいなかま	~きかんしゃトーマスのテーマ2~

「あなたの（担当している）子どもは、どんな子どもですか？」と質問されたら、どのように答えますか。身体的特徴（背が高い）、行動の特徴（落ち着きがない）、心理的な特徴（優しい）等に着目して説明すると思います。アタッチメント（愛着）が安定している子どもの養育者は、性格や心理面を表すような特徴を説明することが多いです。また、子どもを肯定的に見ている養育者は、子どもの苦手さよりも得意な部分や強みを説明します。日ごろから、子どもをどんな存在として捉えているのか、子どものどんな様子に目を向けているのかという見方・考え方が、この質問に反映されます。

「安定したアタッチメントをもつ子どもの養育者の特徴」

- ①子どもが示すシグナルに対して**敏感**である
- ②子どもが今やっていることに**協力的**である
- ③子どもにとって**心理的、物理的に利用可能**である
- ④子どもの要求に対して**受容的**である



- ①敏感とは、子どものSOSに気付き、正しく解釈して速やかに応えること。応えるとは、「何かをする」だけでなく、子どものシグナルに応じて「やらないでおく」「そっとしておく」ことも大切な応え方である。
- ②協力的とは、子どもの状態、タイミング、気分や関心に合わせて関わり、サポートすること。子どもの行動をコントロールするのではなく、ガイドすることがポイントである。
- ③利用可能とは、大人が子どもにとって、つながることができる、応答を期待できる、使える状態の存在であること。子どもにとって、必要なときに応じられる大人でありたい。
- ④受容的とは、いつもとはいかなくても、最終的にどこかで要求に応えると、子どもはその養育者との間に、安定したアタッチメントを形成することができる。

アタッチメントの直訳は「くっつくこと」です。子どもは、不安になると、強くて優しい人にくっついて、安心だ、安全だという気持ちを取り戻します。くっつく相手は、お母さん限定ではなく、お父さん、おじいちゃんやおばあちゃん、保育園や学校の先生だったりします。大人になるにつれて、くっつき方が変わります。抱っこが電話に、おんぶがメールになります。子どもは、いつでもくっつけるという確信がもてれば、自立できます。

どんな大人も、子どものそばにずっといることはできません。でも、大人に大切にされてきた子どもは、やがて同じように、自分自身を大切にできるようになります。そうやってたくさん大人の思いが、ちゃんと子どもの中に残っていくから、今日も子どもに「あなたが大切だよ」と伝えましょう。

参照：「子どものこころは大人と育つ」著者：篠原郁子



とれたて直送便



アタッチメントに関する問題

子どもは、子どもだからではなく、「」ほしくて泣くのです。あなたなら「」にどんな言葉を入れますか？ みなさんから、たくさんの素敵な言葉たちをお待ちしています。